

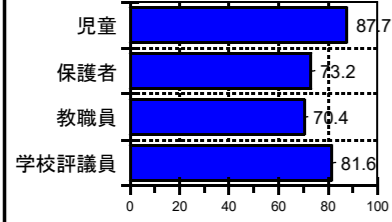
<指標値の評価内容> A…とてもよく取り組んでいる B…ほぼ取り組んでいる  
C…工夫・改善が望まれる D…改善が必要である

徳島市加茂名小学校 児童数389名 学級数18学級 教職員数34名  
(2020.2.28 現在)

# 令和元年度 学校評価総括表 課題と改善策

## 「確かな学力」の育成

わかる授業 総合評価：A (77.5)

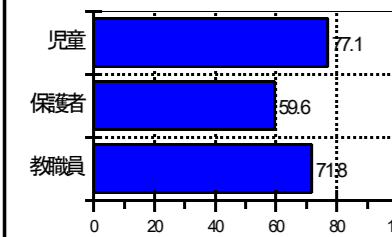


※○が評価所見, ☆が次年度への改善策

○第66回徳島県小学校理科教育研究大会を開催し、「問題を科学的に解決するために必要な資質・能力が育つ理科教育」の主題を具現化した公開授業を行い、高評価を得た。  
○ノート指導に、学校を挙げて取り組み、自力解決を図るためにも、しっかりと自分の考えをもたせ、書いて考えることの習慣化を図った。  
☆話し合い、学び合う授業が展開できるよう、児童に必要な資質・能力を

洗い出し、単なる意見の出し合いに終わらない授業展開のあり方について、実践を通じて考えていく。

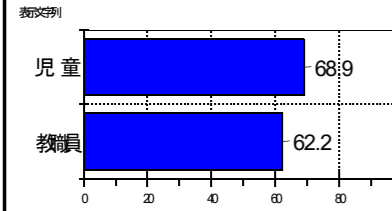
基礎・基本の定着 総合評価：B (71.4)



○朝の活動時間で行っている「ぐんぐんタイム」で、漢字や計算のスキル学習や、4～6年生では「全国学力学習状況調査」で「徳島県ステップアップテスト」の解答スキルの向上に取り組んだ。  
☆基礎基本の定着のために、チーム・ティーチングを充実させ、今以上に個に応じたきめ細かな指導を充実させる。

☆朝の活動時間で行っている「ぐんぐんタイム」の有効な手立てを模索し、内容や方法などについて工夫していく。

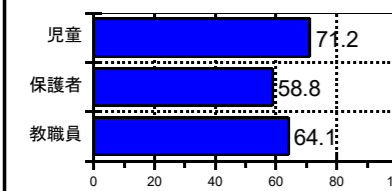
聴く・話す・表現力 総合評価：C (65.6)



○ホワイトボードやICT機器を効果的に活用し、児童が互いにより主体的に自らの考えを発表することができる授業展開を心がけ、全学年で実践した。  
○「主体的・対話的で深い学び」を具現化するため、児童が主体的に問題解決に取り組む授業について

理科の授業を核として実践を行った。  
☆「主体的・対話的で深い学び」を常に念頭に置き、ペア学習やグループ学習から学級全体学習への流れを意識して授業を構想し、その過程で今以上に積極的に授業参加する児童を増やすべく、自分の考えを伝え合う場の提供を図っていく。  
☆場に応じた適切な言葉を選ぶことができ、個々の児童のコミュニケーション能力の向上に努める。

学習習慣 総合評価：C (64.7)



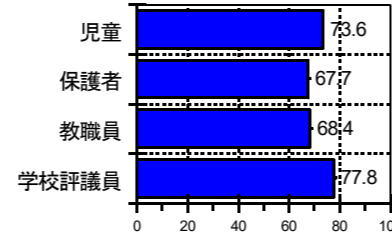
※○が評価所見, ☆が次年度への改善策

○学校全体で「読書タイム」の時間を確保し、読書習慣の確立を図ると共に、学期末には多読児童の表彰を行い、読書活動の推進を図った。  
○家庭学習習慣の育成として、「家庭学習の手引き」を配付し、学年により等々「学年×10分」の家庭学習時間について啓発を行った。

☆全校で取り組んでいる「学習規律」の徹底がまだ不十分であり、引き続き取り組む必要がある。  
☆自主勉強の質・量ともに今以上に高めるための手立てについて考え、改善のための方策について共通理解する機会をもつ。  
☆算数科を始め、どの教科でもノート指導について学年の発達段階に応じて、徹底するとともに、自分の考えを書くことが習慣化するよう、書く時間の確保に努める。

## 「豊かな心」の育成

あいさつ・言葉遣い 総合評価：B (71.6)

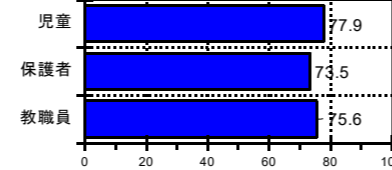


※○が評価所見, ☆が次年度への改善策

○6年生の児童を中心に行っている「あいさつ運動」が定着し、多くの児童が主体的に「あいさつ運動」に参加している。  
○毎月、朝会で「キラリさん紹介」を行い、全校児童へ善い行いの働きかけをした。  
☆「遠くからでもあいさつ」「自分からあいさつ」をするという意識を涵養していく。  
☆言葉遣いについては、各学級で徹底を図りながら、教師自身が最も身近なモデルとなることを意識する。

☆「思いやりの心」「協力する心」は育ってきているが、異学年での活動が不十分であり、「かもなっ子タイム」を活用し、その意義について再確認しておく。

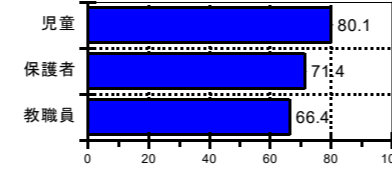
いじめのない温かな人間関係 総合評価：B (75.9)



○児童の「学校へ行くのは楽しい」の指標値が昨年度を6.9%下回った。  
○道徳や人権の学習では、自他を大切に学習を進めているものの、それが必ずしも実践に結びついておらず、言葉の少なさと相俟って、トラブルにつながるケースも見られる。  
○「ハッピーレター」を給食時に紹介すること

とは定着してきたが、内容のマンネリ化が見られることから、その内容について改善が図られるような声かけや支援の必要性がある。  
☆教職員自身のコミュニケーション能力を校内研修等で高め、対話のキャッチボールができるよう取り組んでいく。  
☆いじめの未然防止、早期発見・早期対応に向けた継続的な取組をさらに充実させ、家庭と連携を図りながらいじめ解消に向けた指導を徹底する。

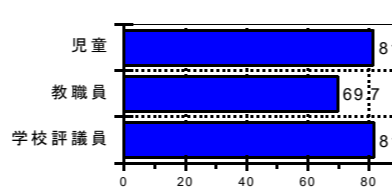
人権教育・特別支援教育 総合評価：B (69.5)



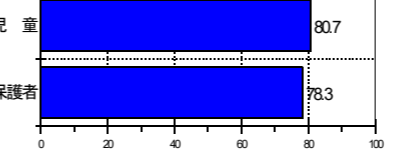
○児童一人一人の状況や能力に応じた個別の指導体制（内容及び方法）の改善を図り、特別支援教育のさらなる実践を推進していく必要がある。  
☆児童一人一人を大切にしてお応じようとする教職員自身の人権感覚を向上させるための研修を進めるとともに、自らの言動を省みる機会をもつようにする。

☆差別の現実から学び、その思いや願いに深く共感し、系統性を重視した「地域から学ぶ」という同和問題を核とした人権学習の充実を図っていく。  
☆定期的且つ必要に応じて校内委員会を実施し、児童一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援・合理的配慮について、共通理解のもと学校全体で取り組んでいく。

生徒指導 総合評価：A (77.6) 家庭生活 総合評価：A (79.5)



※○が評価所見, ☆が次年度への改善策



○定期的に、また必要に応じて生徒指導情報交換会等の機会をつくり、全教職員で共通理解を図ること、教師間の連携を密にした早期発見・早期対応にあたった。  
☆生徒指導情報交換会を単なる情報共有の場としてとらえるのではなく、すべての教職員が個々の児童に対して適切な指導を行うことができるようにする。  
☆基本的な生活習慣については、学年の発達段階に応じた指導を継続し、家庭との連携を密にして根気強く取り組んでいく。  
☆保護者や地域、関係機関と連携を図り、子どもたちの生活の様子についての情報を迅速に把握、共有できるようにしていく。

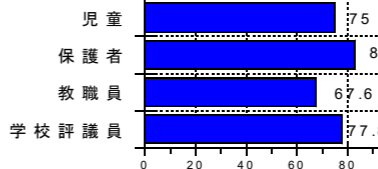
☆家庭との連携を密に取りながら、担任だけでなく、全教職員でサポートできる支援体制づくりをさらに図っていく。

学校教育目標 故郷を愛し、主体的に学び、心豊かにたくましく生きる子どもを育てる  
—創造と信頼と協働による活力ある学校づくり—

めざす子ども像  
か…感謝の心をもつ子  
ち…目標（めあて）をもち、自ら学ぶ子  
の…仲よくし、相手の立場になって考える子  
こ…伸び伸びと、明るく元気な子  
こ…根気強く、最後までやり抜く子

## 「健やかな体」の育成

健康・体力 総合評価：A (74.6)



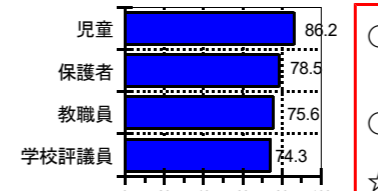
※○が評価所見, ☆が次年度への改善策

○外遊びを好む児童は多いが、「元気いっぱい運動に取り組んでいる」に対する指標値は昨年度を下回った。  
○「給食を好き嫌いしたり、残したりしないで食べている」の指標値は、昨年度よりポイントを落としたもののB評価に留まり、食育セミナーなどの取組の効果がうかがえる。

○給食の残滓量（給食日誌に記載）自体は、昨年度と大きな変化はない。  
☆年間を通じた体力作りを進めていくと同時に、県や市で開催されるさまざまな協議会に参加する児童を広く募り、運動習慣の確立に努める。  
☆夏季には水泳教室、冬季には業間マラソンを設定したり、体育委員会主催の体育集会を開催したり、児童が運動に触れる機会を増やし、運動習慣を確立するための契機としていく。

## 安全・安心な学校づくり

安全・安心 総合評価：A (77.0)



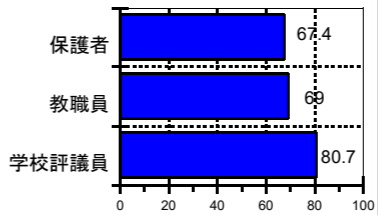
※○が評価所見, ☆が次年度への改善策

○警察と連携して不審者対応避難訓練を実施するなど新たな視点で、危機管理意識の更新を図った事により、具体的な問題点を明らかにできた。  
○どこからでも校地内への侵入が可能である本校の構造上の脆弱性が、保護者から指摘された。  
☆安全な登下校について、児童への指導、保護者への啓発を継続する。

☆あらゆる状況を想定して、警察・消防等関係機関との連携をより密にする。

## 保護者・地域との連携

P.T.A活動・情報提供・環境づくり 総合評価：B (71.8)



※○が評価所見, ☆が次年度への改善策

○P.T.A球技大会や運動会のP.T.A種目への参加人数の確保が難しい状況にある。  
☆常任委員会や、各委員会の活動がより活性化できるよう、そのあり方や活動内容について検証し、対応策について話し合う。  
☆公民館やまちづくり協議会、青少年健全育成協議会、加同協などの地域団体や地域組織と連携をさらに密にし、地域コミュニティーを充実していく。

## 信頼される学校づくりのために

◎学校の教育方針や活動を機会あるごとに児童・保護者・地域のみならずへ発信するとともに、対象者に応じた発信の方法についても工夫する。  
◎教職員一人一人の意欲が高まるような協働体制の醸成を図り、全教職員が学校経営に参画できる組織として、「チームで対応する力」の育成に取り組んでいく。  
◎授業力を高めるために、「学び合う集団」として機能するように、教職員の力量形成を促す研修の機会を積極的に設けていく。  
◎保護者や地域の方々の理解と協力を得ながら、児童の実態にあった教育を推進していく。  
◎情報や要望の収集に努めるとともに、迅速な対応を心がける。

(A : 73.3以上 B : 73.3未満~66.7以上 C : 66.7未満~50.0以上 D : 50.0未満)  
※各項目ごとに、回答者全員の評価のポイントの平均を、「(Aの個数×100+Bの個数×2/3×100+Cの個数×1/3×100)÷(A+B+C+D)」で算出し、項目の指標値とする。